

令和6年度 第3回熊本市小中一貫教育懇談会議事録

日時：令和7年(2025年)1月29日(水)

14:00~15:30

場所：熊本市教育センター 中研修室

○議事録

1 開会

2 教育委員会事務局挨拶（須佐美教育次長）

3 協議

（1）事務局説明 小中一貫教育及び小中連携教育に関する調査結果について

小学校における一部教科担任制の事例集3の紹介

Kumamoto Education Week 2024-25の取組の紹介

来年度の情報発信について

（2）意見交換 今年度の小中一貫教育や幼小中連携教育の取組及び来年度に取り組みたいことについて

小 山 委 員 （小島小学校長）	（1）事務局説明 小中一貫教育及び小中連携教育に関する調査において、質問が小学3、4年生には少し難しいのではないかと。「小学校の先生が中学校の話をしてますか」という質問はどの程度の回答を期待しているのか。
松 岡 課 長 （指導課）	確かに小学3年、4年生にとっては中学入学までが遠いので、実感をもつのは難しいが、例えば、授業で「3年生で習う小数は中学校でも使うからね」というような話をする場面があるのではないかと。
小 山 委 員	そういう話は小学校でもできる。しかしながら、この質問が普段先生方から話をされていることとして結果に表れていないだろう。
岡 村 座 長	一貫グループと連携グループで、中学校で少し差が出ている。100%になるというわけではなく、先生方の意識づけになるだろう。
中 釜 委 員 （市PTA協議会）	小中一貫教育日より「つなぐ」は学校に配付されているか。保護者に渡してあるのか。
指導課担当	各学校へグループウェアのメッセージで送付している。学校によっては校内で掲示したり、ホームページに載せたりしている。
岡 村 座 長	保護者質問の「小中学校間で連携していると思うか」において、「わからない」という回答が44%になっている。先生方が様々な取組をされているが、保護者には伝わっていない。事務局からの説明にあったように、芳野中のホームページは充実しているので参考にしていきたい。教育委員会とのリンクも貼っておくと広く伝わっていくのではないかと。保護者に連携していることを理解してもらえると、子ども達の実感や実感も変わるだろう。
星 田 委 員 （江南中学校長）	（2）意見交換 前回までにいろいろ話をさせていただいたが、その後の取組として、中学校の吹奏楽部が昼休みにミニコンサートを行い、幼稚園生を招いた。園長先生が本物に触れさせたいということで、12月の昼休みの20分間で行った。園児には演奏後に感想を言っていただいた。中学生もニコニコして、

	温かい気持ちになっていた。 10月に地域の畑に地域の方と大根を植えた。1月に幼稚園生と中学生で収穫をした。150本ほど採れたので、こどもたちが持って帰った。幼稚園では、次の日の弁当やおでんなどで食べられている。こどもたちの触れ合いをできるだけ増やしていきたい。楽しい触れ合いを取り入れていくとよいと思っている。
岡村座長	大根を植えたのは地域の方の畑か。
星田委員	中学校内にある畑である。以前から地域の方が関わっていると聞いていた。地域の方に耕運機で耕していただいた。次はジャガイモを植えようと考えておられる。
岡村座長	地域の方の参加は多いのか。
星田委員	自治会や農家さんなどの地域の方が5, 6人来られていた。地域の方は、こども食堂の材料にも活用したいと考えておられた。
岡村座長	素晴らしい取組である。幼稚園生からするとお兄さんやお姉さんの演奏というのは本当に迫力があるだろうし、それを見ることで地域に対する愛着にもつながっていく。地域性をいかして、地域に根差した取組の報告である。
坂本委員 (天明中学校長)	『一部教科担任制の事例集3～乗り入れ授業編～』が教育委員会から各学校へ出されているが、今年度天明中では、できることから実施しようということで、2学期は、小学校の合唱コンクールに向けて各小学校に音楽の乗り入れ授業を行った。3学期は音楽と図工を中心に行っている。小学校の卒業式に向けての合唱の練習で音楽担当が乗り入れ授業を行っている。図工については、卒業制作や版画作りのために美術の担当がこれから行く予定である。 昨日は幼小中連携の日だったが、授業研究会が終わった後、小中の合同会議をした。「学習指導」、「生徒指導」、「特別支援」、「保育園連携」の4部会に分かれて先生方で話をした。特別支援部会では、4小学校と天明中を含めてSSTに取り組んだことの振り返りをした。生活指導部会では、チャイム着席コンクールを4小1中で取り組み、その成果を発表できた。次年度については、掃除に課題があるということで、掃除が時間いっぱい取り組めるように小学校と中学校で統一して縦割り班の掃除にしようという話が出された。 授業研究会では、横山審議員を講師として招き、授業づくりについて講演をしていただいた。小中学校で統一した授業スタイルで取り組んでいくことを全体で確認できた。 他の取組として、総合的な学習の時間の環境教育で、3年生がつくったペットボトルのおもちゃを保育園に持って行った。また、3年生の女子生徒4名がSDGsカルタというものを作った。国交省がそれに注目され、「これは国交省で作しましょう。」ということになった。それを近いうちに保育園に贈呈する予定である。来年度はSDGsカルタを小学校に持って行って、1年生や2年生と交流できるのではないかと考えている。来年度は、総合的な学習の時間の取組を小学校にプレゼンをして、小学生にまず理解できる内容なのか、これが果たして小学生もときめく活動なのかということを確認しながら、「天明をこのような町にしたい」というアイデアを天明まち

	づくりセンターや市役所へプレゼンしていく取組ができればよいと考えている。
新 川 委 員 (託麻東小 教頭)	チャイム着席コンクールについて詳しく聞きたい。
坂 本 委 員 (天明中校 長)	チャイム着席コンクールについては、ある小学校があまりできていないという課題が出され、中学校で取り組んでいることを4つの小学校でもやってみようということになった。チャイム着席が良くなったという報告が昨日の小中合同部会であった。小学校ではもう一歩進んで、道具をきちんとそろえた状態で着席するということを実践されていた。中学校はそこまでできていないので、中学校でも合わせてやっていこうという話になった。小中の接続という意味でも大切だと感じている。
岡 村 座 長	こどもたちが自分の生活を整えていくためには、最終的にチャイムがなくても自分たちで生活を整えられるようになっていかなければいけないと思うが、1つの動機付けとして「隣の小学校に負けないぞ」というところから出発し、これから一緒に仲間たちと切磋琢磨するという点においては、とても面白い取組だと思う。 総合的な学習の時間に関しては、どうしても何かを作って終わりになりがちで、結局そのこどもたちがそれを作る能力が元々ある場合は何も成長していない。作ったことによってこどもたちが何を感じて、何が成長したかということを意識すれば、それを使って他の人たちに何かを伝えたり、大人たちを動かしたりすることができる。そういうところまで動いていくことで、総合的な学習の時間の真価が発揮される。次年度の取り組みを楽しみにしている。
坂 本 委 員 (鹿南中教 頭)	6月の幼小中連携の日にカリキュラム部会でカリキュラムを見直す中で、こどもたちの実態が分からないと難しいだろうということで、こどもたちの実態を把握するために、中1ギャップに特化してアンケートをとることになった。それを受けて2学期にアンケートを実施して、結果をもとに昨日の幼小中連携の日で検討をした。アンケートは「中学校に入学する時に楽しみにしていたことは何ですか」、「中学校に入学してから中学校生活で大変だったことは何ですか」、「現在の中学校生活が楽しいですか」の3つだった。大変だったことでの上位の2項目は、「学習する内容が難しい」、2つ目が「成績」だった。幼小中連携の日の部会の中で、学力について話し合っている部会がなかったので、カリキュラム担当の先生方に小学校と中学校で同じ課題意識をもって取り組めるように話し合いをして頂いた。小中学校でお互いに取り組んでいることを出し合うぐらいしかできなかったが、小中共通の課題として意識づけられると、色々なアイデアが出てくるのではないかとということで今後も話し合いを続けていきたい。理想は6月の時点で実態がわかっていて、1年間取り組んで、その振り返りを1月にするとよいと思うので、来年度は入学してきたこどもたちの実態を早く掴んだ上で取組ができればよいと思っている。 2つ目は、本校の3年生が少年の主張全国大会で3位の結果を収めてYouTubeに公式に挙げられているので、鹿南中校区の校長会で小学校のこどもたちにもぜひ紹介していただくようお願いをした。2学期の終業式で菱形小学校の校長先生の話のときに、この動画の一部を見せていただき、校区にはこのような先輩がいるということで紹介していただいた。

	3つ目は、2月6日に新入生向けの学校説明会があり、生徒会で学校紹介を行う。例年、中学生が一方的に「中学校はこういうところですよ。」ということで紹介するが、生徒会のこどもたちから、「新入生が知りたいことを説明した方がよいのではないか。」という意見が出された。事前に小学6年生に「中学校生活で知りたいことは何か」というアンケートをタブレットで行った。それを受けて説明会を行うことになっている。 最後に乗り入れ授業については、今年度はまだ実施できていないが、小学校の卒業式の歌唱指導で実施する予定である。
岡村座長	小中学校で課題意識を共有することは大切である。今年報告いただいた内容はすべて次年度に向けての種まきとして、大きな一歩になっていくと思う。次年度の6月には、新しい課題がある程度把握された状態で進んでいてもらいたい。乗り入れ授業は、芸術系の教科においてゲストティーチャー的に単発で行うということが、負担感が比較的少なそうに感じるので、そういった形からでも構わないので、できるところから進めていただければと思う。
松岡課長	生徒会のこどもたちから、「6年生が知りたいことを伝えた方がいいのでは」という意見が出たということで、とても相手意識があり、新入生説明会が何のためにあるのかということ意識した発言である。そのような発言が出た背景を教えてください。
坂本委員 (鹿南中教頭)	学校全体でよく言っているのが、自己指導能力と他者認識で、こどもたちも機会がある度に使う言葉となっている。各学年でも「相手の立場に立って」という話をよくしている。伝統的にずっと言ってきた言葉なので、そういったことからこのような発言が出たと推測するところである。
岡村座長	アンケートをICTで行うのは最近のトレンドであるが、小学生が実際に回答してくれると中学生は嬉しくなる。小学生としても本当に聞きたいこと聞けるので、面白い取組だと思う。
村上委員 (吉松小学校長)	植木北中校区は小中一貫教育研究モデル校として2年、小中一貫校になって2年ということで4年目の取組になる。昨年度、基本部会で作った「きらめきプラン」というものがある。地域で育つこどもたちが、保育園から中学3年生までのそれぞれの年齢段階で、どのような姿で育っていくのかというのをまとめたものである。それをもとに今年度スタートした。基本部会の中で、ICTが盛んになっていく中で、メディアコントロールに課題があるという話が出たので、生徒指導部会で保護者と児童生徒にアンケートを実施した。保護者がもっている課題や気づき、こどもたちがもっている課題や意識にどのような違いがあるのかということと、どの部分に今後アプローチをしていけばよいかということとを1年かけて探ってきて、そのまとめが出ようとしている。 学力充実にも力を入れていこうということで、本年度は国語を軸としたカリキュラム表の作成に取り組んできた。昨日が保小中連携の日で、最後のまとめと次年度に向けての話し合いが行われたので、近日中に完成する予定である。思考力や対話力を高めるためには語彙力が必要だということが、それぞれの学校から昨年度の話し合いで出されたので、今回の取組をした。 保小中連携でいうと、今年度は保小中連携の日にすべての保育園が参加をしてくださるようになった。以前も都合がつけば参加してくださってい

	たが、きらめきプランを作成したことで、自分たちが今保育で頑張っていることがこういう風に繋がっていくのだという架け橋になったと思っている。カリキュラムの作成にも参加されている。保育園との連携として、近隣にこの保育園のこどもたちが遊べるような公園がないということで、小学校の運動場を借りたいというお願いがあったときは、喜んで使っていた。その中で小学生との交流もできた。 今年度は健康教育課のペッパーくんが本校に1か月半ぐらいたった。1学期の終わりから、2学期の最初だったので、こどもたちは1週間ぐらしか関わらなかったが、保育園に電話して、「体育館に待たせておきますので、いつでも遊びに来てください。」と案内をした。 中学校との連携では、伝統行事になっているが、特別支援の合同見学旅行がある。引き渡し訓練も小中合同で行っている。夏休みの研修も合同で行うことができた。 今年はバス代が非常に上がったということで、これまで2つの小学校と一緒に見学旅行に行っている学年はあったが、他の学年もできないだろうかということで、急遽であったが一緒にできる場合は合同で実施した。 民間プールを活用した学校でもあるので、1年生から小学校同士は一緒にプールの時間は過ごしているので、色々な場面で吉松小と田底小の同じ学年のこどもたちが触れ合うことができるように今後もしていきたい。 令和7年度に向けては、保護者の家庭教育の向上を目指して、保護者向け合同講演会を実施したい。今年度のメディアコントロールのアンケート結果を踏まえて、保護者にお伝えすべき講演内容を検討しているところである。 昨年度完成した「きらめきプラン」に関しては、保育園との連携が深まったことで、保育園の先生方から「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を入れたいという嬉しい提案をいただいた。そういったものも入れたきらめきプランを作り上げながら、より一層、保小中の連携、小中一貫校を意識した取組を強化していきたいと思っている。 難しいのが乗り入れ授業である。中学校の卒業式が終わると、音楽や技術の先生の授業時数の余裕があるので、その教科は実施しているが、それ以外の教科が広がっていかないの、そういったところも来年度は取り組んでいこうと話し合いをしているところである。
藤 枝 委 員 (市 P T A 協議会)	きらめきプランというものを実際に見てみたい。この時期にはこのような姿になってほしいというような内容を想像している。
村 上 委 員	これがきらめきプランで、保護者や保育園に渡している。「自宅のみんなが見えるところに貼っておいてください。」とお願いをしている。2月の新入生の保護者説明会でも配付している。
藤 枝 委 員	こどもたちはあつという間に大きくなっていく。これがあると保護者もこうやって成長していくのだとイメージしやすいと思う。
岡 村 座 長	保護者とこどもにメディアとの付き合い方についてアンケートをされたということだが、保護者とこどもで違いはあったか。
村 上 委 員	まだ自校のデータしか見ていないが、自校のデータでいうと、保護者は「こどもがネットへの書き込み等は行っていない」と思っている割合が多いが、こどもたちは素直に「書き込んだことがある」と書いている。メデ

岡村座長	ィアを 10 時以降は利用しないなどの決まりがあるが、こどもは「守れている」の回答が多いが、保護者になると「守れていない」という回答が多いというように、こどもと保護者で認識の差があるようだ。 きらめきプランが全家庭に配られているということは、とても意味が大きい。これから保育園や幼稚園の観点を盛り込んでいくと、さらに良いものになる。こどもの育ちはつながっていくものなので、保育園の先生方がどんどん入って来てくださるとよい。メディアに関しては、小学校・中学校は日本全国どこへ行っても避けることができない大きな社会問題として学校が取り組んでいかなければいけないものに確実になっていく。色々な取組の情報が共有されていくとよい。次年度の取組に期待する。 保育園のこどもたちが小学校の運動場を使えるのは素晴らしい。私の大学にもインターナショナル小学部ができ、敷地内で小学生が昼休みに外で遊んでいると、高校生が小学生と一緒に縄跳びをするなど、すごくいい姿が見られる。私も校舎の窓からこどもたちが外で走ってるの見ていただけで幸せな気持ちになる。いろんな形で異年齢のこどもたちが関わる場所があるというのは、よい環境づくりにつながっていく。
小山委員 (小島小校長)	小中一貫教育としての取組として5つ紹介する。1つ目が、中学校の文化発表会の様子を撮影してもらい、その動画を中学校区の小学校の方に送ってもらった。小学生はそれを鑑賞して、中学生の歌声を学ぶ機会にしたり、中学校への憧れの気持ちを高めたりできた。 2つ目が、小中3校合同で歯磨きの習慣化を図るという取組である。本校区の課題の1つが、「歯磨きの習慣化」ということで、昨年度の実態を受けて、本年度は3校合同で歯磨きの習慣化を図る取組をした。「歯っぴーカード」というものを作って、各学校で1週間取り組んだ。その取組をするにあたって、各校の保健委員たちがオンラインで会議をして、事前打ち合わせをした。 来月は、各学校で行っている学校保健委員会を3校合同で実施予定である。地域の方、保護者、校医、保健こども課など、色々な方々をお呼びして、拡大した学校保健委員会を予定している。 各学校の生活委員会がオンラインでつながり、各学校の日頃の挨拶、授業時の挨拶についての実態を情報交換して、「中学校はこういう取組をしているので、小学校でもやってみましょう。」というようなオンライン会議をした。 先ほど話があがっていたように、中学校の入学説明会では、昨年度までは中学校側からの説明だったが、今年度は小学校のニーズに合うようにということで6年生にアンケートをとって、6年生が知りたいことを生徒会がプレゼンをするという取組を2月に入ってからする予定にしている。 幼小中連携の取組みとしては4つある。1つ目が、幼児教育について学ぶ研修会を夏休みに3年前から行っている。本中学校区には、7つの園があり、小島小校区に3園、中島小校区に4園ある。幼稚園・保育園のどこか1つに小中学校の先生方が参観に行き、参観の後、園長先生から講話をいただいて幼児教育について学んでいる。 2つ目が年長児の小学校体験で、これは1年生が見学旅行に行っているときに行うので、教室を使うことができる。実際に教室の椅子に座って話を聞くという体験をしてもらったり、手洗い場やトイレを使ってもらったりする。手洗い場は、保育園・幼稚園とは高さが違う。 3つ目は、他の学校もやっているが、年長児と1年生が交流をすること。これは生活科の一部として取り組んでいる。

	4つ目が先ほど吉松小で話が出ていたが、近くの小島保育園のこどもたちが小学校の運動場に来て散歩するなどの活動をしている。 来年度に向けては、少しずつ色々な取組ができてきているので、少なくとも維持を目指して行きたい。余裕があれば、プラスアルファができればと思っている。
村 上 委 員	合同での学校保健委員会のテーマは歯についてか。
小 山 委 員	そうである。
村 上 委 員	昨年の課題であったので、今年1年取り組んで、その成果を確認する形で進んでいる。
岡 村 座 長	次年度に向けては、何か課題は出ているか。
小 山 委 員	今のところ保健関係は歯だけである。
村 上 委 員	幼児教育についての研修会の話の中で、中学校区に7つの園があるということだったが、吉松小の近くには豊田保育園があり、田底小の近くに田底保育園があるが、それ以外はない。少し離れた植木幼稚園などから数名入学してくる。保護者向けの講演会を来年度実施するにあたって保育園の方も呼びかけたい。豊田保育園と田底保育園は公立でもあり、小学校に近いのでもちろん声をかけるが、それ以外の数名しか入学して来ない私立の保育園には、どれぐらいアプローチしていいのか迷いがある。今ぐらいの時期になると、新入生が入学して来るかわかるが、夏休みの研修会を開催するときには、新入生が入って来るのか全然わからない。やみくもに案内をしてよいのか、昨日話題になった。そのような所で困ったことはないか。
小 山 委 員	すでに7園あるので、これ以上広げるとキャパオーバーになるところである。
岡 村 座 長	実際はその7園以外から入学して来るこどももいるのか。
小 山 委 員	そうである。
岡 村 座 長	中学校区内にある保育園に限定をしているということで、この辺はどうしてもどこかで線を引かなければいけない部分が出てくる。吉松小におかれては、新入生が来るかわからない保育園に対しては、講演会の案内ぐらいから始めてみるのもよいかもしれない。
松 岡 課 長	それに関して教育委員会としては、負担のない範囲でぜひ保育園に声をかけていただきたい。新入生が入って来るときはなおさらだが、そうではないときもしっかりと繋がっていただくとありがたい。公立幼稚園は指導課の所管で、それ以外は保育幼稚園課が管轄しているので、指導課としても保育幼稚園課としっかりと連携をとっていきたいと考えている。そして、幼小中の連携・接続をしっかりしていくようにしたい。
川 上 委 員 (桜木小校)	桜木小学校はCグループになる。今年は連携カリキュラムを先生方に知らせるところから始まった。その中でも特に幼稚園・保育園の部分

長)	がカリキュラムにまだ組み込まれていなかったもので、本年度はまずそこを保育園の先生方にご協力を頂いて、入れ込んだものが形として出来上がったというのが一番大きな実践である。そこから波及して、昨日の幼保小連携の日では、秋津小を会場として桜木中校区の小中学校と東野中校区の小中学校が一同に秋津小に集まり、秋津小の授業参観をして、部会は東野中校区と桜木中校区が合同にする部会もあれば、それぞれの中学校校区で行う部会もあるというふうな会をもつことができた。桜木中校区の校長先生方と東野中校区の校長先生が賛同してくださったことで昨日実現したところである。合同で行った部会は、生徒指導部会、特別支援教育部会、幼保小部会、司書部会になる。桜木小には、肢体不自由学級があるが、桜木中学校区には他になかったもので、東野中校区と合同にしたことで、肢体不自由学級としての取組の確認や情報共有ができたという声があがっている。 それから、小1、小2の特別支援学級の担任が、来年度入学して来られる幼稚園・保育園に訪問に出かけているところである。園には新しくできた幼小中連携カリキュラムを配付している。 本校のホームページには、スタートカリキュラムを掲載しているが、「ぜひご覧ください。」という案内文も配付している。先ほど話があったように、確かに今度小学校に入学して来られる保護者に配付した方がよいと思ったので、2月14日に新入生の保護者説明会を行うので、その時に資料を渡して私から話をしようと思ったところである。 中学校との連携については、部活になるが、中学校の部活の場所が限られているということで、本校のこどもたちが使い終わった4時半ぐらいから、体育館を週に1～2回バドミントン部に貸している。直接小学生と触れ合うことはないが、中学生の姿を見るというところはよいと思っている。今の小6のこどもたちが中学3年生になるときに、部活動が新しいものに変わるということで、中学校の方から「現時点でこどもたちがどの部活に入ろうと考えているのか把握しておきたい。」ということで、アンケートをとっているところである。中学校との連携ができていところだと感じている。 次年度に向けては、先ほど話が出ていたが、幼小中連携カリキュラムをホームページに掲載することと、保護者やこどもへの周知をしていきたい。また、次年度の幼保小中連携の日に、もう一度幼小中連携カリキュラムを示して、部会ごとに見直しをしてもらいたい。例えば学習部会ならば、学習に関係するところを見直すということをしていかななくてはならないと考えている。
岡村座長	Cグループの2つの中学校校区の小中学校が秋津小に集まったということだが、集まるまでの話はスムーズにいったのか。
川上委員	東野中校区は会場が輪番になっており、今回は秋津小だった。秋津小が東野中校区で集まるだけで精一杯となれば、桜木中校区は桜木小に集まるという流れになるはずだったが、そこを秋津小の校長先生が理解していただいたので、合同でできることになった。秋津小の先生方には駐車場整理など、頑張っていたいただいた。
岡村座長	実際に合同で実施をしてみてどうだったか。
川上委員	実は桜木中校区の校長部会はその日にはできなかった。桜木中校区では、教頭部会をその日にすることにしているので、私は学校に待機しており、実際に見に行けなかったが、職員からは刺激を受けたと聞いている。

岡村座長	特に生徒指導部会では、桜木中校区と東野中校区の全ての先生方で情報共有ができたので、広がりがあったと聞いた。 秋津小の校長先生に聞いたところでは、東野中校区の校長・園長部会をされており、東野中校区の幼小中連携カリキュラムについてもう少し見直さないといけないという話が出たとのことだった。園長先生方からは「会に同席できてよかった。」、学校からは「スタートカリキュラムをもう少し改善したい。」という話題も出たと聞いている。 教育委員会としてもCグループがどのように連携を進めていくのかというのは大きな課題だが、この取組は1つのアイデアになるだろう。例えば、幼小中連携の日が年に3回あるが、そのうち1回は2つの中学校区が合同で行うといったようなことができれば、2つの中学校区があるということが強みになるようなことも可能性としては出てくると感じた。来校者が増えて、会場校の負担が大きいという課題はあるが、1つ大きな実践事例として、教育委員会にも参考にしていただきたい。
新川委員 (託麻東小教頭)	託麻東小学校は1小1中のAグループになる。第1回目から話をしているが、「託東タイム」というグループアプローチを小学校でも中学校でも取り組んでいる。それを中心に幼小中連携の日の取組を進めた。1回目は、グループアプローチを研究しておられる曾山先生を迎えて、小学校と中学校のグループアプローチを見ていただいた後、講演を聞く研修会とした。2回目は、中学校の授業を小学校から見に行き、その後分科会をした。その時に出されたこどもたちの課題について3回目は小中学校の先生で話し合うことにしている。2月5日に3回目を行う予定である。 先程、学力向上の話があったが、託麻東小学校でグループアプローチを始めるにあたって、学力向上を目指して行く前に、まずはこどもたちの安定した心が必要だろうというところでスタートした経緯がある。2月5日の3回目は、もう一度このことを再確認しようということになっている。毎年職員が変わるので、スタートしたときの意識というのはどうしても薄れていく。私も今年来たので、そういった思いが薄かったかもしれない。現在の落ち着いてきたこどもたちの姿は、これまでの取組によるものであるというところをみんなで再確認したい。 保育園については、私が2月5日の案内文を配付したのが9園あったが、5名の先生方が参加予定である。保育園の先生方にも、託東タイムでこどもたちを育てているところを見ていただきたいと思っている。 保育園と小学校の交流の取組としては、1年生の生活科を中心に行っている。先日は、4つの園のこどもたちが1年生のクラスに分かれて入り、交流をした。 もう1つは、5年生は来年度6年生になるので、幼稚園に行って4月に新入生になるこどもたちに託東クイズをした。どういう内容が次の1年生にとって楽しいことかということを考えながら交流をしている。 職員では、初任者が保育園に研修に行ったり、保育園から1日研修に来られたりしている。 小中学校では、グループアプローチに加えて、中学校で取り組んでいる無言掃除やチャイム前黙想、挨拶などについて小学校でも取り組んでみようということになっている。 6年生が6クラスあるので、クラスマッチを色々な場面で企画している。その中の1つに合唱コンクールがあったので、中学校の校長先生や音楽の先生を審査員で招き、専門的なアドバイスや講評をいただいた。 中学校からは総合的な学習の時間に学んだことを6年生に紙芝居として

	見せに来てくれた。 あとは、支援が必要なお子さんが小学校と中学校におられる場合は、小学校と中学校で合同会議を開くこともできている。小中の行き来が簡単にできるので、職員同士も親しくなりやすい。 来年度のこととしては、生徒指導担当者と話していたのが、「校則を考える会」に中学生にも参加してもらうことを考えている。また、小中連携担当者が、小中両方とも4月に来た職員で、軌道に乗るまで時間がかかったので、小中一貫教育を進めていくためには、引き継ぎの面も考慮していかなければならないと感じている。
岡 村 座 長	担当の先生の引き継ぎに関しては、同じタイミングで小中学校の先生が異動になってしまうことは当然影響が出てくる。1つの課題として考えていく必要がある。 いただいた意見で感銘を受けた。そもそもどうしてグループアプローチが始まったかということは、知っておられる先生からすると当たり前だが、学校は毎年先生方の入れ替わりがあるので、なぜこれをやっているのかというそもそもの話はとても大切だと思っている。先生方で色々な小中一貫教育に向けての取組をさせていただいているが、先生方が新しく取組を始めていただいたときの熱意の度合いというものが、その先生方が異動された後に新しい先生方が同じ温度感でやってくださるとは限らない部分がある。丁寧に毎年確認をしていかなければ、こういったものが形骸化してしまうと、取組の効果が落ちてしまうということが起きるので、再確認されるというのは素晴らしいことである。
中 釜 委 員	この懇談会に参加させていただき、保護者への情報発信が大事だと感じた。吉松小学校が全体に紙で配る取組をされていた。ペーパーレスの時代だが、紙の方が見られる方が多い気がする。「すぐーる」で届いたとしても、少し見たらすぐ閉じてしまう。紙媒体で周知するのも大事だと感じた。周知の方法として、市政日より等も活用してはどうかと思った。全世帯に配付されているので、利用するのも1つアイデアだと思った。市PTA協議会でも会長が集まって月1回の会議をしているので、そちらの方で周知していただければ、PTAの方からも伝わっていくのではないかと感じた。各学校で色々な取組が行われているので、ぜひ情報の発信をお願いしたい。
藤 枝 委 員	この会に参加させていただき、初めて聞く内容がたくさんあった。先生方が教育活動の中で幼小中や地域との連携をどうにかしてとっていきこうとされているのがわかったので、もっと保護者に周知していきたいと思った。連携をしたいという気持ちは地域の方ももっておられる。地域のおじいちゃんおばあちゃんたちが声をかけてくださったり、手伝ってくださったりする場面がよくある。私の学校はCグループということもあり、どこでどうつながっているのかが、まだ見えていない。先生方が小学校に行ったり中学校に行ったりしながら取組をされている機会を見ることができれば、保護者によって様々で、学校によく行く保護者もいれば、仕事などで年に1、2回という保護者もいるので、どのように周知していくのかというのは大事だと感じた。中釜委員からもあったように、市PTA協議会や学校のPTAなどからも周知できればよいと思う。
岡 村 座 長	今年も1年間様々なご意見を頂いた。他の学校の取組で自校でも取り組んでみたいということがあれば、まずは懇談会の大きな成果と言える。年

	度初めから出ていた、先生方の小中一貫教育としての考えを保護者や地域にどう発信していくかという課題は、次年度に続く課題であるので、よい案を出しながら取組を進めていく必要がある。次年度以降も各学校で実践事例を積み重ねながら、一步一步前に進んでいってほしい。 これで意見交換を終了させていただく。事務局にお渡しする。
--	---

4 事務連絡

5 閉会